

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

中川村

No.	事業項目	事業名
1	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	県産材利用促進事業
事業費 1,100,000 円 (うち支援金: 673,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

中川村に広がる山林は地域の共有林として管理され個人に分割された森林が多いが、近年森林所有者の山離れが進み、整備が行き届かず放置された森林が目立つようになっている。木材価格の低迷や、次世代の担い手不足等も課題となっている。放置森林が増えることによって地域への鳥獣被害が深刻な問題となっており、長期的な視野を持った、早急な対応が求められる。

(2) 本事業の目的

県産材の利用促進を図るため村内の公共施設に県産材を利用した設備の充実を促進する。特に今事業実施の片桐保育園のロッカーは長年の使用により傷みが目立つようになっている。今回県産材を利用したロッカーに更新することで、園児にも木の温もりを直接感じてもらい、愛着をもって使用する心を養いたい。また、木材に触れてもらい、森林や自然への関心を持ってもらう機会を増えるようにしたい。

事業内容

(1) 実施場所 中川村 片桐保育園

(2) 対象者 中川村

(3) 実施方法

- ・県産材を使用した木製ロッカーの設置

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和 4 年度)

- ・片桐保育園ロッカーの木質化



事業効果

(1) 事業実施による効果

本事業の実施により園児に木製品のぬくもりや利便性を感じてもらい、木材への関心を高めてもらおうと共に保護者にも森林整備の必要性などがPRできる。

(2) 継続性

村内の公共設備の更新や周辺森林の整備など、関係機関と連携しながら継続的に事業を進めていく。

(3) 普及性

保育園のロッカーを、県産材を利用して木質化することで、来園者や保護者にも広くPRすることができる。特に園児は毎日利用する物なので、木の温もりを肌で感じてもらう事ができ、木育につながり大きな普及効果が見込まれる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

園児が毎日直接手に触れるロッカーを木製にすることで、木の良さを感じてもらうことができた。また、近隣で伐採した木を使っていることを保育の中で教えたことで、より愛着を持って使用してもらうことができています。園児や保護者にも木材や自然環境についてより身近に感じてもらえるような環境整備ができた。

(2) 課題

木製品である為、表面を保護するための塗料の塗布など定期的なメンテナンスが必要となる。時間が経過すると共に木材特有の色合いに変化していくのを楽しみながら、長く大切に使用してもらいたい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

今後も村内公共施設の要望も取り入れながら整備を進めていきたい。

事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)